

E-40 生活資料の消費量について —「耐用財」を中心として—
杉野女子大家政○横山光子 昭和女子大短大 今城治子

目的 家庭において消費される生活資料の量は、一般に、生活資料を購入・入手した時点において、数量、あるいは、価格などで測られる。しかしながら、高度経済成長期において、家庭内にもちこまれるようになった、さまざまな商品は、「耐用財」として、家庭内にとどまり消費され続けるようになり、これらの「耐用財」の消費量を確定するためには、購入時点での記録だけでは不十分になってきた。

消費生活資料量を、生活実態に即して測定し、さらにそれらを管理していくために必要な理論的検討と、方法手段について考察する。

方法 家庭経済学における「消費」諸概念や記録方法などを、文献研究により検討する。さらに、個別事例の家計記録等により、消費生活資料量と、購入生活資料量との乖離を実証する。

結果 家庭において消費される生活資料量を把握するためには、生活資料を「耐用財」、「非耐用財」とに区分して管理し、取扱う必要が生じる。そのための簡便な記録方法を開発しなければならない。